状況証拠

3・11フクシマ事故後、若者の甲状腺ガンの発症が異常に増えて、現在、患者たちが事故と発症の因果関係を巡って訴訟を起こしています。自然発生の常識では100万人に年間2～3人と言われていた若者の甲状腺ガンが、福島県内では対象の若者約37万人に約400人も見つかっているのです。因果関係の有無の判断にはこの状況証拠だけで十分だと私は考えます。しかし、福島県が進める「県民健康調査」検討委員会は因果関係を認めません。事故による放射線被ばくによって患者のガンが発生したことが科学的に証明されていないからだと言うのです。患者個人のガンと事故の因果関係を科学的に証明する方法があるのでしょうか？私は無いと思います。あるのならその方法を教えてもらいたいです。一方、この集団的現象を疫学的に分析して「因果関係」を証明した津田敏秀・岡山大学教授の論文は上記委員会で無視されました。「因果関係」を認めることによりおおぜいの患者が救われるのであれば、何も悪いことはありません。その状況証拠をもって誰かを刑事犯として罰するわけではないので、冤罪事件が起きる可能性もありません。今ある状況証拠こそ十分な証拠として認めるべきです。(小倉志郎)